

「 西日本ごう雨から学んだこと 」

広島県 呉市立昭和北小学校 4年 河野 穂花

わたしは、海田町に住んでいるおばあちゃん、おじいちゃんの家によく行きます。

行くと中に、矢野とうげを通ります。いつも、車で何気なく通っている道路ですが、まどの外を見ていると、たくさんの木がたおれています。がけくずれを直している場所があつたりします。

わたしは、

「どうしてそうなっているの？」

とお母さんに聞きました。

すると、2018年7月8日に起きた、西日本ごう雨のことを話してくれました。わたしはまだ2才で、その時のことをおぼえていませんが、何日も前から雨がふり続き、その日の夜も大雨で、土しゃが道路に流れたり、川の水があふれて道路に水がたまり、人や車が流されたりして、そこでなくなってしまった方もいたそうです。そして、雨がやんだ後も、車が通れるようになるまで数か月通行止めでした。7年もたつのに、今でもさい害のあとがのこっていることにおどろきました。

その当時、わたしが2才で弟が0才で、お父さんは仕事だったので、お母さんは夜中にスマートフォンのエリアメールが鳴り続け、2人を守るためにどうすればいいのか、ふ安な夜をすごしたそうです。

わたしの家の場所は、ひなんせづぶ事でしたが、近くでは、てい電やだん水が起きたり、いつも買い物に行っているお店が閉まっていたり、開いているお店も、お店にとどく品物が少なく、毎日当たり前に生活していたことが出来なくなってしまったことを知りました。

テレビで、土しゃくずれや、ひなん所で生活している人の様子を見たことがあります。そして、学校では自分の地いきが土しゃさい害にあったら、どこにひなんするのか、何を持っていくのか勉強しました。わたしは、今まで自分には関係ないとと思っていたことも本当で、これからも土しゃさい害にあいたくないと思います。

でも、お母さんの話を聞いて、ある日とつ然いつどこであうか分からぬ、当たり前に生活している毎日がなくなってしまうかもしれない土しゃさい害のこわさを知ったと同時に、ふだんから家族でどこにげるか話し合ったり、持ち出す物をじゅんびしたりすることが大切だと思いました。

そこでわたしは、2つの事をしました。

1つ目は、ひなんする場所を決めておく事です。いつどこで起きるか分からぬという事は、いつも家族がいつしょにいる時ばかりではないからです。もし、お父さんやお母さんが仕事で、わたしと弟は学校だったとしても、ひなん場所で会えると思います。

2つ目は、自分に必要な物を考え、ぼうさいリュックを作ることにしました。お父さんやお母さんが持っていく物は、家族4人分のほぞん食や飲み物、かい中電とうを入れました。わたしのリュックには、たから物や洋服、家族の写真を入れました。なぜなら、家族がはなれてしまった時でも、他の人に写真を見て探してもらうことができると思ったからです。リュックは、すぐに持ち出せるげんかんにおくことにしました。

こうしてさい害にそなえてじゅんびをする事は、家族みんなの命を守る大切な事だと分かりました。